



目次

薬用植物の紹介	教授 草野源次郎	1
新入生を迎えて	学長 岡源郎	2
望月先生を送るにあたって	学長 岡源郎	3
	教授 碓井信二	3
特別講演会「医療と人権」を終えて	前・人権委員会委員長 坂田勝治	4
「日本薬学会奨励賞」受賞、学位授与など		5
大型機器設置報告	教授 千熊正彦	6
卒業者の進路状況と卒業予定者の進路希望調査	就職部	7
入学試験結果		10
薬剤師国家試験の結果	薬剤師国家試験対策委員会委員長 中元安雄	10
ドイツ・ベルリン留学記	助手 友尾幸司	12
学校法人予算について	事務局長 河野光次	14
人事、各課だより		15
前期行事予定		16
健康管理について		17
公開講座及びオープンキャンパス案内、科学研究費補助金採択状況		18
入学試験概要		19
各部・委員会・委員一覧		20
教育研究業績一覧（1998年）		22

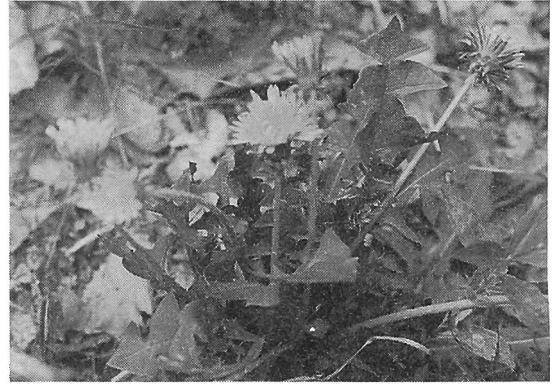
カンサイタンポポ *Taraxacum platycarpum* Dahlst. var. *japonicum* Koidz. (キク科)

表紙写真のカンサイタンポポは、近畿から四国、北九州に分布する在来種である。花のつき方は頭状花序で、両性の舌状花のみの多数の小花が花茎の先端につく。これらの小花は総苞によって、しっかりと束ねられている。大阪近郊ではめっきり少なくなり、数年前に河内長野市の草地に生えているのを見て感激したことを思い出す。本学薬用植物園では、カントウタンポポ *T. platycarpum* Dahlst., シロバナタンポポ *T. albidum* Dahlst. と共に栽植されている。

タンポポの在来種には地理的変異がある。主に頭状花の数や形ではっきり区別される。頭状花の数で比較すると、甲信越地方のシナノタンポポが最も多く、平均160個の小花が数えられる。次に多いのは静岡県東部に見られるトウカイタンポポで、平均120個の小花が数えられる。それに続くのがカントウタンポポで、小花の数に幅がある。最も小花の少ないのがカンサイタンポポで、平均80個である。写真のように、カンサイタンポポの花は他のタンポポの花より小さい。

タンポポの語源については諸説がある。牧野富太郎説は「タンポ穂」で、球形の果実穂から拓本などに使う小道具のタンポ（フランス語：砲口の栓）に由来したという。しかし、中村浩説もおもしろい。タンポポの花茎を用いて作る鼓のおもちゃ遊びに由来を求めた柳田国男説に従い、それを実験して確信したという。花茎を数cm切り、その両端に数mmの縦の切り込みを入れ、水に浸す。先端の部分が反り返り、放射状に開く。子供達はこれを使い、タン・ポンポンと言って、鼓を打つ真似をして遊んだというのである。タンポポの占名はツヅミグサで、現在のタンポポの名に通ずる。

現在、雑草性の強いセイヨウタンポポ *T. officinale* Weber が世界各地に伝播し、わが国の都市周辺の空き地などにも入り込んで繁茂している。これは名前のようにヨーロッパ原産で、頭状花の外総苞片の反り返りが特徴である。同様に都市の空き地などに繁茂するアカミタンポポ *T. laevigatum* DC. もヨーロッパ原産で、外総苞片が反り返る。前者の果実が淡褐色であるのに対し、後者の果実は赤褐色である。後者はやや小型で、葉の切れ込みが深い



(セイヨウタンポポ)

のもセイヨウタンポポとの識別に役立つ特徴である。

これらの外来種は暑さに強く、春～秋に開花し続ける。自家受粉し、できる種子は高温でも発芽する。これらの特性のために、セイヨウタンポポもアカミタンポポも世界的に広がったと思われる。それに対し、カンサイタンポポなどの在来種は自家受粉が起こりにくく、他の株の花粉とでない種子が出来ない。花期は4～5月で、夏は地上部が枯れて休眠し、秋に再び葉が生えてくる。種子は20℃以上では発芽せず、主に10月頃に発芽する。従って、開発などで自然環境が変化すると、在来種の数が減り、セイヨウタンポポなどの外来種の数が増える。タンポポはまさに環境指標植物である。

在来種は数も少なくなっているのに、増殖するように配慮されるものであろう。江戸時代には救荒植物として使われ、若葉はゆでて、根は漬物や油いためにして、食用にされた。全草に苦味成分を含み、現在では地上部が苦味健胃薬として利用される。セイヨウタンポポなどは、根を採取し、乾燥後、苦味健胃薬にされるが、コーヒーの代用品にもされている。適度の苦味、甘味、風味が楽しめる。

兵庫県出身の岩槻邦雄先生は植物分類学のリーダーの一人であるが、その著書『植物からの警告』を通じて、「植物達は黙って何もいわないように見えるが、実際にはさまざまのことを雄弁に物語っている。植物達の主張にもっと耳を傾けて欲しい」と述べている。滅びる心配のあるカンサイタンポポの花を眺めながら、植物の主張に耳を傾けたい。

(教授 草野源次郎)

新入生の皆さんへ

学長 岡 源郎

新入生の皆さん、御入学おめでとう。

若さと希望に満ちあふれた皆さんをお迎えすることは、私たち教職員にとっても大きな喜びです。

大阪薬科大学は、歴史も古く伝統ある大学です。教育・研究のレベルも高い水準にあります。皆さんの先輩は、いろいろな分野の指導的立場で活躍されています。皆さんは、本学に入学されたことを誇りに思ってください。

さて、皆さんはこれから薬学への道の第一歩を踏み出されます。“初めの第一歩は、道半ばに当たる”と云います。志をしっかり持って第一歩を踏み出してください。

薬学は、文字通り薬についてのあらゆることを学ぶ総合科学です。医薬品を創るところから、その医薬品を医療の場で適正に使用るところまで、幅広く学ばねばなりません。それだけにカリキュラムの内容も盛り沢山のものがあります。皆さんにとって、これからの4年間は大変だと思いますが、何よりも大切なのは学ぼうとする意欲です。一つひとつ噛みしめ、味わって、消化不良にならないよう自分の血とし、肉としてください。そして幅広い教養と薬学の科学性を身につけた薬のスペシャリスト、薬剤師に育ってほしいと願っています。

大学は学問との出会いの場だけでなく、良き師、良き友との出会いの場でもあります。人と人との出会いは、その人の運命を左右するものでもあります。一生お付き合いできる良き師、良き友との輪を広げてほしいと思います。それは必ずや皆さんの宝となることでしょう。

皆さんは、21世紀に生き、21世紀を担う人材です。何事にも果敢にチャレンジしてください。スポーツや文化活動にも熱中し、幅広い人間形成を行ってください。そして健康に留意し、心の豊かな人生の基礎となるスタートをきって頂きたいと願っています。

入学式

平成11年4月6日(火)午前10時30分から体育館において、平成11年度大阪薬科大学薬学部並びに大学院入学式(学部315名、大学院博士前期課程25名、大学院博士後期課程3名)が来賓・父母多数参列のもとに挙行された。



卒業式・学位記授与式

平成11年3月13日(土)午前10時30分から体育館において、平成10年度大阪薬科大学薬学部卒業式並びに大学院学位記授与式(学部289名、大学院博士前期課程21名、大学院博士後期課程2名)が来賓・父母多数参列のもとに挙行された。

最終講義

下記のとおり、最終講義が行われた。

望月伸三郎教授

日時 平成11年3月17日(水)午後2時

演題 「健康と運動」

場所 講義室2A

退職記念行事

3月17日(水)午後5時から大学会館において望月伸三郎教授、森本武司事務局次長、北氏明正事務局次長の退職記念パーティーが開催された。

望月先生を送るにあたって

学 長 岡 源 郎

望月先生、長い間大阪薬科大学の発展のため、いろいろな面で御尽力頂き、誠に有り難うございました。

先生は御承知のように、主として体育関係の教育・研究に力を注がれました。大学受験という大変な生活からやっと解放された若者たちに、スポーツを通して、体力と気力の溢れる健全な生活を取り戻してもらうことをモットーとされておりました。先生はハンドボールが特技で、お若い頃には数々の大会で優勝された経験をお持ちです。その経験を生かし、ハンドボールをはじめ、サッカー、テニス、ソフトボール、バレーボールなど多くのスポーツを学生たちに親しませ、社会生活において必要とされるチームワークの精神を学生たちに植え付けるよう努力されました。そして、身体を動かすこと、すなわち運動を日常生活の中に取り入れた生活習慣の改善を提唱されました。学生たちと一緒に汗を流していらっしやる先生、「オイ！コラ！」と学生たちに喝を入れていらっしやる先生の姿が、今でも目に浮かんでまいります。

一方、先生は健康科学といった面でも学生を指導し教育されました。常に「健康とは何か」「Quality of Lifeとは何か」など学生に問いかけ、運動を介しての「治療より予防」という医学的認識を強調されていらっしやいました。私たちも、望月先生を送るにあたり、あらためて運動の効用を再認識したいものです。

先生は、これからも大阪ハンドボール協会、大阪体育協会などで御活躍されるとお聞きしています。お元気で心豊かな新しい生活をエンジョイされることを祈念し、同時に大阪薬科大学の今後を温かく見守ってくださることをお願い申し上げます。

≪ 望月伸三郎 先生 略歴 ≫

昭和7年生まれ

- 昭和54年4月 大阪薬科大学助教授に就任
- 60年4月 教授に昇任
- 62年6月 学生部長を兼任（平成元年6月まで）
- 平成2年4月 寮監を兼任（平成4年3月まで）
- 6年4月 寮監を兼任（平成8年3月まで）
- 7年4月 学生部長を兼任（平成9年3月まで）
- 10年3月 定年退職
- 4月 嘱託教授
- 11年3月 退職

望月伸三郎教授最終講義によせて

教 授 碓 井 信 二

教壇を去る人の言葉は、聴講者に様々な印象を残す。その印象は講演者の研究・教育業績や人柄を偲ばせる。だが更にわれわれ聴講者自身の在り方についても考えさせる。そしてこの最後の観点は、我々にとっても最も身近で肝腎な問題であるはずなのに、いざ考えてみようとするところが意外に難しい。古来「目は目を見ず」というが、問題の所在はどうやらそのへんにあるのかも知れない。

望月先生のことを私が意識し始めたのは何時の頃からであったろうか、恥かしいことだが漠然としていて思い出せない。1982年秋に日本体育協会からヨーロッパのスポーツ施設の研修に派遣された先生の助教時代時代の研修報告は、翌年の本学の紀要（『ばいであ』、Vol. 7）に掲載させて頂いたにもかかわらず、発行責任者としてその意義をどこまで読みとっていたか全く覚束ない。紀要の12号（1988年3月発行）に寄稿頂いた教授時代の論文「日本の『体育・スポーツ』の今日的課題」を読み返す気になったのは、本学で初めて所謂「専門」と「教養」の枠を越えた複数教員制による「総合講座」の試み（テーマは「環境」）を合評会形式で紀要の特集に取り上げ、その司会を務めた1993年末のことである。人間の生命を（単なる「ヒト」としてのそれではなく）その環境との関連で総合的に考える場合、我々の「身体性」は個人としても共同体としても問題の中心的な結節点をなすからである。

本年3月17日に開催された先生の最終講義「健康と運動」の司会者として私は、密かにこの言葉を講義の内容理解のためのキーワードとして拝聴させていただいた。先生は問題を洋の東西によって文化的・歴史的に変動する生活の質の観点から捉え、実に平明で具体的な議論を展開なさった。身体性を人間の自然と文化の関数と考え得るなら、その変革はやはり先生がよく引用なさるあの“disport”の語源にまで遡って思い返す必要があるが、今更こんな痴人の繰り言では先生の失笑を買うだけかも知れない。

特別講演会「医療と人権」を終えて

前・人権委員会委員長 坂田 勝治

昨年、国連総会において「世界人権宣言」が採択されて50周年という記念すべき年でした。また「世界人権宣言」の精神の実現を目的として1995年にスタートした「人権教育のための国連10年」の4年目でもありました。この間、世界各国は人権教育の推進に積極的な取り組みを始め、我が国でも内閣が「国内行動計画」を公表して、「あらゆる場を通じた人権教育の推進」を求めています。

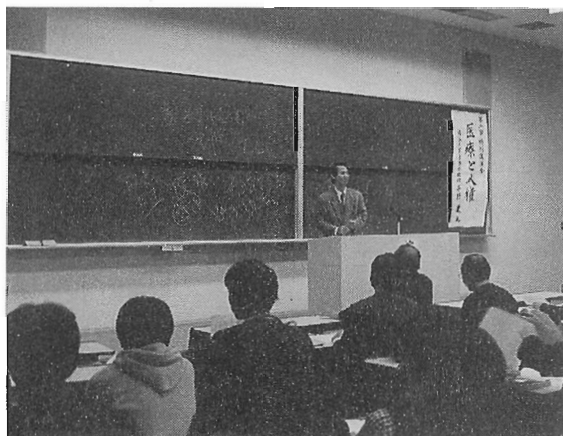
本学でも人権委員会を中心に研修・啓発計画が練られ、「人権の世紀に向けて」をモットーに、大学全体として取り組み、継続的な努力を積み重ねていく事になっております。そして昨年（1997年11月17日）には、第1回人権に関する特別講演会「歴史と人権」（講演者：脇田修大阪大学名誉教授）が開催されました。

これに続いて昨年（1998年12月7日）には、「医療と人権」と題して、平野武先生（龍谷大学法学部教授）を講演者にお迎えして、学生と教職員を対象にして人権研修の講演会が行われました。平野先生には「人権とは何か」に始って、「侵害されるもの



としての人権」、「拡大する人権」、「人権の普遍性」、「患者・被験者の人権」等について、歴史的にあるいは社会的な観点から詳細に説明していただき、人権というものの概念を明確に教えていただきました。またいろいろな具体的事例を交えて「現代人権論の潮流」にも言及していただきました。私達はふだん「人権」という言葉を日常的によく使いますが、この言葉の持つ真の重要性について、この講演会を通じて改めて認識を新たにしたいと思っております。

本学は薬科大学として、公教育に携わるものとして、教育機関に課された社会的責務を果たしていかなければなりません。医療の一端を担う教育機関として、今回のテーマ「医療と人権」は我々に大きな課題として重くのしかかってきます。われわれ大阪薬科大学に学び、教育・研究に携わる者は、学生も教職員も真摯に学び、人権の重要性を認識し、人権に対する意識を一層深めていきたいと思っております。



✧ 浦田秀仁助手「日本薬学会奨励賞」受賞

浦田秀仁助手（第2薬品製造学教室）が、平成11年3月29日 徳島文理大学において平成11年度日本薬学会奨励賞を受賞した。

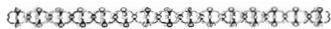
研究題目「リボースのキラリティーが核酸の高次構造に及ぼす影響と新規機能の創製」



✧ ダイオキシンの分解実験に成功

三野芳紀助教授（第1生薬学教室）とその研究チームがダイオキシンをマイタケやエノキダケで分解する実験に成功し、平成11年3月29日～3月31日に徳島市で開催の日本薬学会で発表した。

（平成11年3月20日の「日本経済新聞」に掲載）



◆ 慶弔

井上 正敏 名誉教授 平成11年1月26日逝去
従五位勲四等旭日小綬章受章
（在職期間 昭和25年4月1日～平成6年3月31日）

✧ 学位授与

〔博士〕

論博第21号 博士（薬学） 佐野 雅俊
気管支喘息の治療における薬剤の相互作用およびβ-アドレナリンレセプターの役割に関する研究

（平成10年12月21日付）

博第11号 博士（薬学） 大津 博則

カラマツ (*Larix kaempferi*) の含有成分に関する化学的研究

（平成11年3月13日付）

博第12号 博士（薬学） 喜多 紗斗美

エンドセリン-1のノルエピネフリン収縮増強作用とその生理学および病態生理学的意義に関する研究

（平成11年3月13日付）

〔修士〕

修士（薬学） 男子 17名 女子 4名 合計 21名

（平成11年3月13日付）

〔学士〕

学士（薬学） 薬学科 153名 製薬学科 136名

男子 81名 女子 208名 合計 289名

（平成11年3月13日付）



卒業武風景

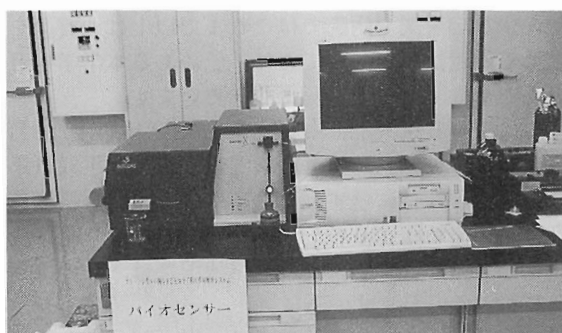
大型機器設置報告

フリーラジカルの関与する生体分子相互作用解析システム

平成10年度文部省私立大学等研究設備整備費等補助金の交付を受けて、表題システム（申請事業費35,700千円、補助内定額23,800千円）が設置された。本システムは大別して2種の装置、電子スピン共鳴（electron spin resonance: ESR）装置（日本電子製 JES-TE200）および表面プラズモン共鳴（surface plasmon resonance: SPR）を利用したバイオセンサー（ピアコア製 Biacore X）から構成される。

ESR 装置は不対電子をもつ化合物の検出を直接的に行うために必須の分析機器である。本装置は、従来は物理学や化学のごく限られた分野で使用される特殊な分析機器というイメージが強かったが、近年、生体内の活性酸素や一酸化窒素（NO）などのフリーラジカルが、生物の情報伝達、生体防御、老化、発がん、制がんなどに深く関与していることが明らかになるにつれて、医学、薬学、農学など幅広い領域で活発に利用されるようになり、薬学界でも本来設置しておくべき通常の機器という扱いを受けている。本学でも生体内フリーラジカルの関与する生命現象を分子レベルで解明する研究が数教室で活発に行われている。今後、フリーラジカルの検出や金属タンパク質、金属錯体の構造特性の解明、あるいはスピンラベルによる生体膜流動性の研究、ラジカルメトリックイムノアッセイ、光化学反応などへの応用が期待される。なお、本装置には付属品として-170~200℃まで試料温度を変化させるための温度可変装置（ES-DVT3）及びデータ処理のための ESR データシステム（ES-DAO2）が備えられている。

一方、表面プラズモン共鳴を利用したバイオセンサーは、生体分子の相互作用をリアルタイムに測定して、その結合・解離速度定数や平衡定数を求めるものである。生体反応は生体構成分子同士の特異的相互作用、例えば、レセプター・リガンド結合、酵素・基質複合体形成、転写因子・核酸複合体形成、抗原・抗体反応などにより開始され制御されている。これらの反応を解明するためには、生体分子間の相互作用の速度や結合の強さを解析することが必須であり、従来より種々の方法が開発されてきたが、標



識が必要であるなど実験上多くの制約を受けている。表面プラズモン共鳴を利用したバイオセンサーは、生体分子間の相互作用が標識なしでリアルタイムでモニターできる原理的に新しい装置であり、一般に利用されるようになったのは1991年以降であるが、瞬く間に多くの研究者が注目するところとなり多数の報告が行われている。表面プラズモン共鳴の原理はやや難解であるが、センサー表面に接触している試料溶液の屈折率の変化を光の強さの変化として検出するものである。測定は、センサーチップ上の金薄膜に試料の一方を固定化し、次いで他方の試料をセンサー上に流し、2つの試料分子が相互作用した結果生じる数十ピコグラム程度の微量の質量変化を検出し、その経時変化をセンサーグラムとして表示した後、解析する。

本システムは学内共同利用機器であり、共同機器センター内に設置されているので、積極的な利用が期待される。

（教授 千熊正彦）

平成10年度卒業者の進路状況並びに 平成11年度卒業予定者の進路希望調査

就 職 部

平成10年度卒業者（第46期生）進路状況

薬科大学卒業生の就職事情は、経済事情の悪化と医療保険制度改革、医薬分業の促進などに伴い、最近急激に変化しつつあります。企業及び病院からの求人数が激減する一方調剤業務を含む薬局の求人が増えてきており、学生の業種選択は従来とは考え方を転換しなければならない状況となっています。全体的に内定を受けるのが困難な状況下で、特に求人数の少ない企業や病院ではこれまで以上に「質」を求め厳選採用となっており、伝統ある本学学生といえども大変厳しい状況になっています。

このような状況下で今春卒業した第46期生289名（男81名、女208名）の進路状況は、表Ⅰ（平成11年3月31日現在）に示すとおりで、国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路決定率となっています。この進路状況には、次のような特徴がみられます。

- 1) 薬業関連企業への就職者は、男子24名、女子35名で、この人数は全体の20.4%であり、昨年度の27.5%より大きく下まわっています。とりわけ内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）への就職が益々厳しくなっています。
- 2) 病院、研修生など医療機関への就職者は、男女あわせて65名（22.5%）であり、昨年度（24.6%）をさらに下まわっており、昨年厚生省により打ち出された病院における薬剤師の配置基準も影響し、益々狭き領域になっています。
- 3) 薬局・小売業などへの就職者は、予想どおり昨年度（18.8%）より大幅に上回って男女計73名（25.3%）となり、医薬分業の進展による売手市場のフォローの風が吹いています。
- 4) 公務員職域への就職決定者は11名（3.8%）、大学院への進学者は32名（11.1%）で、昨年度（それぞれ3.2%、12.3%）とほぼ同じ決定率となっています。
- 5) その他の項の49名は、ほとんどが薬剤師免許取得後に薬剤師免許を必要とする職種（例えば病院）への就職を決めようとする者で、薬剤師国家試験が難しくなっている状況からこのような考え方の

学生が多くなっています。しかし、このような場合でも、薬剤師免許を取得すれば、5月には全員就職が決定しています。

一方、大学院修了生の就職は各担当教員の指導のもとで決定され、第23期大学院修了生（平成11年3月修了）（21名）の場合も、ほぼ100%の就職率となっていますが、職種内容の多様化で、「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています。

学部卒業生及び大学院修了生の就職先は、表Ⅲにまとめて示しました。〈合計人数の（ ）内は大学院生数で外数〉

新4年次生（第47期生）の就職ガイダンスと進路希望調査

就職協定廃止3年目を迎えた今年の就職戦線は、早期化、長期化、多様化がさらに進む見通しです。さらに、近年、これら就職に際して企業はもちろんのこと病院、薬局などにおいても学生の目的意識やマナーなどが重視され、学生に対する就職指導への重要項目として考えています。

最近の就職状況の著しい変化に対応すべく新4年次生には、第一回目の就職ガイダンス（平成10年10月5日）をすでに実施し、薬学生を取り巻く就職環境や就職活動を始めるに当たっての心構え、マナー、就職斡旋に関する手続きなどを資料に基づき指導しています。第二回目の就職ガイダンス（同年12月18日）では、企業及び薬局に勤務する4人の本学先輩に就職活動体験報告をお願いし、第三回目（平成11年1月29日）には、本学では初めての試みとして、製薬会社23社及び薬局10社の参加、協力を得て学内で企業説明会を実施しました。

さらに、進路希望調査を行い、その上で、学生の職種選択と就職活動の一助として、昨年度の求人先、時期等について紹介しながら、「個人面談」を3月3日、15日、4月5日、8日の4日間行いました。新4年次生の人数は昨年度より少ない271名（男子72名、女子199名）で、その進路希望調査の結果は、表Ⅳに示すとおりで、女子の薬業関連企業（営業、

内勤)と病院(薬局)への就職希望者数が多いのが特徴です。薬学生を取り巻く就職戦線の激変の折、各学生の希望に合致した就職ができるかどうか厳しい状況と思われます。したがって、この「個人面談」では、製薬企業、医療機関関係者からの情報を交えながら、社会のニーズの変化という現状を充分理解してもらい、今までの希望職種にこだわることなく、現実的な就職活動をするよう指導してきました。

本年度の就職活動は、すでに3月頃より開始された製薬企業と一部調剤薬局・ドラッグストアのセミナーなどで活発化しました。今年の求人数は、薬業関連企業、病院ともに昨年よりさらに減少し、その反面、調剤薬局、ドラッグストアなどでは激増することが予測され、この変動に学生がいかに対応するかが就職率アップの鍵となると思います。また、特に就職の難しい病院に折角決定しながら薬剤師国家試験不合格によりその職を失う場合が少なからずでてきており、これが、本学学生の今後の就職に影響することを危惧しています。

就職は人生を左右する転機であり、就職に関し学生諸君自らの努力はもちろんのこと、担当の諸先生や関係の方々のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

表Ⅰ 平成10年度学部卒業生・進路状況

(平成11年3月31日現在)

区分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業(営業) (内勤)	20	24.7	15	7.2	35	12.1
病院・診療所 研修生	7	8.6	39	18.8	46	15.9
薬局・小売	4	4.9	15	7.2	19	6.6
公務員 教職員	15	18.5	58	27.9	73	25.3
大学院・研究生			8	3.8	8	2.8
その他			3	1.4	3	1.0
合計	18	22.2	14	6.7	32	11.1
その他	13	16.0	36	17.3	49	17.0
合計	81	100.0	208	100.0	289	100.0

表Ⅱ 大学院博士前期(修士)課程修了者進路状況

(平成11年3月31日現在)

区分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業(営業) (内勤)	3	12.6			3	14.3
病院・診療所 研修生	6	35.3			6	28.6
薬局・小売			1	25.0	1	4.8
公務員 教職員			3	75.0	3	14.3
大学院	2	11.8			2	9.5
その他	6	35.3			6	28.6
合計	17	100.0	4	100.0	21	100.0

表Ⅲ 46期生(平成11年3月卒業)進路・進学先

(平成11年3月31日現在)

〔企業営業〕

小野薬品工業
キヤッツ
救心商事
住友製薬
第一製薬
ダイナボット
大日本製薬
田辺製薬
中外製薬
日本イーライリリー
日本ウエルカム
日本化薬
日本グラクソ

日本新薬
日本ベリンガーインゲルハイム
日本メジフィジックス
日本レダリー
日本ロシュ
ノバルティスファーマ
ノボルディスクファーマ
萬有製薬
藤沢薬品工業
扶桑薬品工業
明治製菓
山之内製薬
ワーナーランバート
合計 35(3)人

〔企業内勤・研究〕

上野製薬
小野薬品工業
京都第一科学
協和発酵工業
共和薬品工業
クインタイルズ・アジア・リンク
小城製薬
劑盛堂薬品
サラヤ
三尾堂
新生薬品工業
新和物産
住化分析センター
千寿製薬

武田分析研究所
田辺製薬
東邦薬品
東洋ビューティー
ナガセ生化学工業
ナカライテスク
日研化学
日本ウエルカム
西日本照射サービス
菱山製薬
藤本製薬
丸石製薬
メディサイエンスプランニング

合計 24(6)人

〔病院〕

青山病院(藤井寺市)
明石病院(京都市)
あびこ病院
泉原病院(山口県)
入江病院(姫路市)
岩国みなみ病院
上野病院(三重県)

上山病院(寝屋川市)
永生病院(香川県)
大島病院(京都市)
岡山協立病院
河崎病院(貝塚市)
市立岸和田市民病院(嘱託)
キナシ大林病院(高松市)

喜馬病院（東大阪市）
 岐阜大学医学部附属病院
 近畿大学医学部附属病院
 錦 秀 会
 厚生会第一病院（八尾市）
 甲南病院（滋賀県）
 島谷病院（福山市）
 シミズ病院（京都市）
 白石病院（愛媛県）
 新協和病院（大阪市）
 聖マルチン病院（坂出市）
 摂南総合病院（門真市）
 ベルランド総合病院（生長会）
 第一病院（宝塚市）

高井病院（枚方市）
 高 槻 病 院
 出汐病院（広島市）
 東和会病院（高槻市）
 富永脳神経外科病院（大阪市）
 馬場記念病院（堺市）
 東住吉森本病院（大阪市）
 藤井病院（岸和田市）
 南大阪病院（大阪市）
 耳原総合病院（堺市）
 淀井病院（大阪市）
 音羽病院（洛和会）
 豊中渡辺病院（豊中市）

合 計 46人

〔薬 局〕

育 星 会
 うさぎ薬局（鳥取県）
 協 立 薬 品
 キ リ ン 堂
 ク ラ フ ト
 ク リ ス タ ル
 コ ク ミ ン
 こ す も す 薬 局
 コ ー プ こ う べ
 サ エ ラ 薬 局
 サ ン ド ラ ッ ク
 サ ン プ ラ ザ 加 地
 シ ミ ズ 薬 品
 神 薬 堂
 スギ薬局（愛知県）
 鈴木薬局（大津市）
 セガミメディクス
 泉州保健医薬研究所
 総合メディカル
 ダイコク薬品
 ダイゴ保険薬局（滋賀県）
 たんばば薬局（岐阜県）

中 央 薬 業
 辻上薬局（香川県）
 寺島薬局（茨城県）
 道明薬局（泉佐野市）
 東洋薬局（三重県）
 ト プ コ （高松市）
 ド ラ ッ ク ス
 どんぐり薬局（大阪市）
 ネ ッ ト ワ ー ク
 阪 神 調 剤 薬 局
 ば そ な 薬 局
 フ ォ ル サ ム
 フ ジ 薬 局
 ばぶら薬局（寝屋川市）
 松之木薬品（京都市）
 マ ル ゼ ン
 メ デ ィ カ ル ー 光
 やく栄薬局（三重県）
 ヤックス（福山市）
 よどや（高知県）
 リゲルコーポレーション

合 計 73(3)人

〔公務員〕

大阪大学医学部（実験助手）
 国立循環器病センター研究所
 大 阪 府
 兵 庫 県
 大 阪 市

西 宮 市
 公 立 豊 岡 病 院
 松 山 市 民 病 院
 公 立 忠 岡 病 院

合 計 8(3)人

〔大学教職員〕

大 阪 薬 科 大 学
 京 都 産 業 大 学

兵 庫 医 科 大 学

合 計 3(1)人

〔研修生〕

大分医科大学医学部附属病院
 大阪大学医学部附属病院
 関西医科大学附属病院
 市立 岸和田市民病院
 京都大学医学部附属病院

熊本大学医学部附属病院
 神戸大学医学部附属病院
 長崎大学医学部附属病院
 山口大学医学部附属病院
 和歌山県立医科大学附属病院

合 計 19(1)人

〔大学院〕

大阪大学（博士課程後期）
 京都大学（ " ）
 大阪医科大学（ " ）
 大阪薬科大学（ " ）
 大阪大学（博士課程前期）

岡山大学（博士課程前期）
 京都大学（ " ）
 静岡県立大学（ " ）
 大阪薬科大学（ " ）
 富山医科薬科大学（研究生）

合 計 32(6)人

表Ⅳ 平成11年度卒業予定者（47期生）進路希望
 調査状況（平成11年4月8日現在）

区 分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業（営業）	15	20.8	25	12.6	40	14.8
（内勤）	1	1.4	27	13.6	28	10.3
病 院 ・ 診 療 所	3	4.2	82	41.2	85	31.4
研 修 生	3	4.2	12	6.0	15	5.5
薬 局 ・ 小 売	4	5.6	19	9.5	23	8.5
公 務 員 ・ 教 職 員	3	4.2	5	2.5	8	3.0
大 学 院	32	44.4	21	10.6	53	19.6
そ の 他	11	15.3	8	4.0	19	7.0
合 計	72	100.0	199	100.0	271	100.0

平成11年度入学試験結果

平成11年度入学試験から従来の推薦入試（S）・センター試験利用入試（C）・一般入試（G）の3方式に加え、一般F方式と帰国生徒特別選抜入試（K方式）を加えた5方式となった。

これらの結果は、下記に示すとおりで、志願者総数は、前年度に比べ約500名増という結果であった。なお、推薦入試と同時実施予定であった帰国生徒特別選抜入試（K方式）は、異文化体験を持つユニークな志願者からの応募が期待されたが、志願者はいなかった。

	一般公募制推薦入試 (S方式)	一般入試C方式 (センター試験利用入試)	一般入試F方式	一般入試G方式
入学試験日	平成10年11月15日	平成11年1月16・17日	平成11年2月1日	平成11年2月9日
募集人員	60名	20名	80名	80名
志願者	199名	779名	912名	1,549名
受験者	199名	779名	901名	1,358名
合格者数	61名	168名	258名	354名
入学者	61名	12名	80名	162名
入学者数合計	315名			

第84回薬剤師国家試験の結果

薬剤師国家試験対策委員会委員長 中元 安雄

平成11年3月27日（土）、28日（日）の2日間にわたって第84回薬剤師国家試験が実施されました。私なりの所見を以下に述べさせていただきます。

問題については昨年と比較してバランス上（偏りに）大きな差は見られず、難易度ではかなり易しかったのではないかと考えられます。今年は薬剤師として必要な知識、技能を評価するために考えさせる問題、即ち「基礎学力」を重視する問題が多数出題されていたように思います。しかしながら、[表1]に示すとおり、本学は私学29校中28位（新卒）であり、目を覆う結果でした。昨年以來2年連続の低迷であり、いかに「基礎学力」が不足しているかを思い知らされました。これは国家試験対策がうまく機能しなかったというよりは、カリキュラム等に種々の問題があったと思われる。もちろん、この結果に対しては、その責任を真摯に受け止め、以後の対策に

役立てるつもりです。[表2]からは以前から再三注意しているにもかかわらず特別再試験受験者の不合格者が多数見受けられます。必ず4年次生になるまでに単位を修得しておくことが肝要です。[表3]からも薬学総合演習再試験受験者の不合格者が多いことが言えます。これも「基礎学力」の低下が原因と思われる。[表4]からは新しく実施した留年者対策もその効果はまだあらわれていないようです。[表5]からはBクラスとCクラス間の結果に差は見られず、卒業を第一目標とし、国家試験合格は二の次と思っている節が見受けられます。先輩達からの資料で一夜漬でクリアしてきた付けが回ってきたのではないのでしょうか。入学時にはかなり高い偏差値でありながら、4年後には最低の水準になる原因について、徹底的に解明し、小手先の対策ではなく、抜本的対策を講じなければと思います。さ

らに、[表6]では大学院入学者全員の合格が望まれます。

以上の結果から、学生の向学心を4年間持続させるための対策や、入学時にしっかりした目的意識を持たせるための対策を早急に実施するべきではないかと考えています。

第84回薬剤師国家試験結果

		出願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)
新 卒	男	86	81	62	76.54
	女	213	208	153	73.56
	計	299	289	215	74.39
そ の 他	計	133	121	72	59.50
総 数		432	410	287	70.00
全国平均			11,738	9,050	77.10

表1【新卒合格率の変遷】

		受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均	
第84回 (H.11)	Y	男	36	25	69.44	86.15% (87.09%) 28位
		女	117	95	81.20	
		計	153	120	78.43	
	S	男	45	35	77.78	
		女	91	60	65.93	
		計	136	95	69.85	
総 数		289	215	74.39		
第83回 (H.10)	Y	男	41	26	63.41	82.01% (83.48%) 26位
		女	127	97	76.38	
		計	168	123	73.21	
	S	男	65	41	63.08	
		女	108	82	75.93	
		計	173	123	71.10	
総 数		341	246	72.14		
第82回 (H.9)	Y	男	37	28	75.68	81.22% (84.75%) 15位
		女	113	106	93.81	
		計	150	134	89.33	
	S	男	58	44	75.86	
		女	81	74	91.36	
		計	139	118	84.89	
総 数		289	252	87.20		

[備考]・全国平均欄の()内は、私立大学のデータであり、下段順位は本学の私立大学(29校)における順位である。

表2【特別再試験受験者別】

	特 再 受験者	合格者 (人)	合格率 (%)
男	57	38	66.67
女	91	55	60.44
計	148	93	62.84

表3【薬学総合演習再試験受験者別】

	薬総再試 受験者	合格者 (人)	合格率 (%)
男	53	32	60.38
女	131	82	62.60
計	184	114	61.96

表4【留年経験者別】

		受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)
な し	男	53	42	79.25
	女	183	142	77.60
	計	236	184	77.97
1 留	男	25	17	68.00
	女	23	13	56.52
	計	48	30	62.50
2 留以上	男	3	1	33.33
	女	2	0	0.00
	計	5	1	20.00

表5【薬学総合演習クラス別】

		受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)
A	男	35	31	88.57
	女	99	86	86.87
	計	134	117	87.31
B	男	22	13	59.09
	女	52	33	63.46
	計	74	46	62.16
C	男	24	16	66.67
	女	57	36	63.16
	計	81	52	64.20

表6【本学大学院入学者別】

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)
男	13	10	76.92
女	11	9	81.82
計	24	19	79.17

ドイツ・ベルリン留学記

助手 友尾 幸司

私は、平成9年11月から1年2カ月間、ドイツのベルリン自由大学付属結晶学研究所へ留学する機会を頂きました。ドイツでの生活を振り返り、ここに記したいと思います。

留学先がドイツに決まり、一番の不安はやはり言葉でしたが、ドイツ駐在経験のある卒業生からドイツは日本人も多いし都会では大体英語が通じると聞き、英語の単語を並べれば何とかなるだろうと甘い考えを持っていたので、ほとんど（全く？）ドイツ語の勉強はせずに出発の日を迎えました。とは言うものの、家族と共に関西空港を発つときは、不安と楽しみが入り交じった非常に複雑な心境でした。12時間のフライトの後、まだ午後5時前だというのに既に暗い冬のベルリンに到着し、研究所の一人の研究者に迎えられました。

ドイツの首都ベルリン市は、ドイツ東北部（旧東ドイツ国内）に位置する、人口約400万人のドイツ最大の都市です。いざ生活を始めると、英語はほとんど通じず（むしろロシア語の方が通じるらしい）、1カ月経っても日本人とは会わないという、日本で得た情報とは全く異なる都市でした。緯度は北海道



冬のベルリン（カイザーヴィルヘルム教会）



ベルリン自由大学結晶学研究所

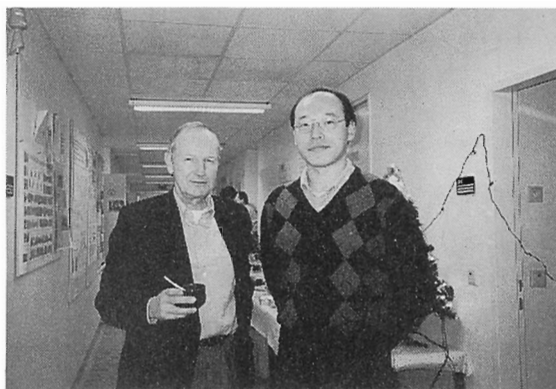
よりも更に高いため、冬は夜が長く午後4時には外は既に真っ暗。しかし、そんな暗い冬でも12月になるとクリスマスの祭りに向けて、街の広場では移動遊園地や様々な屋台が出て多くの人で賑わいます。反対に夏は、夜10時を過ぎないと暗くなりません。日本の蒸暑い夏とは異なり、ベルリンの夏は、湿度がとても低く最高気温も25度程度の非常に過ごしやすい気候です。通りには、多くの人がテラスでお茶やビールを楽しみながら夜遅くまで雑談するという光景を非常によく目にしました。大都市と言えども、東京や大阪のように騒がしくて息の詰まりそうな雰囲気ではなく、街の至る所に公園があり空気も澄んでいて、少し中心部から離れるだけでベルリンの森（かつての王室の狩猟場）や湖などがあり本当にのどかな雰囲気を楽しむことができます。自然ばかりでなく、文化、芸術面においても素晴らしい環境で、市内にある博物館や美術館、劇場の数の多さには驚きました。ドイツの人々にとっては、美術、音楽、オペラや映画鑑賞が日常の大切な娯楽となっています。

ベルリンと言えば色々な面で歴史的な重みがある街ですが、まずベルリンの壁を思い出されると思います。第二次世界大戦後、敗戦国ドイツは、占領国によって東西ドイツに分断され、東ドイツの中にあった首都ベルリン市は、周囲約170Kmの壁で囲まれた西地区（連合軍支配）と東地区（ソ連支配）の東西二つの地区に分けられました。この壁によって、一夜にして引き裂かれた沢山の悲しい人々のことや、厳しい東ベルリンから自由な西ベルリンへ逃げようとした幾つもの試みなどのつらい話や様子は、壁が崩壊して10年経った今も、壁の一部が保存されていた

り博物館等によって知ることが出来ます。しかし、そのようなつらい過去ときっぱり訣別して、今、ベルリンでは統一ドイツの首都復活に向けて新たな街作りが大規模に行われています。その様子は、世界最大の建築現場と形容されるがごとく、数え切れないほどの巨大クレーンがまるで森のように乱立しています。日本のソニーも、ダイムラービルの向かいに大きなビルを建設していました。

ベルリンには、旧東ベルリンにあり森鷗外なども在籍したフンボルト大学、旧西側にはベルリン工科大学と、私が通ったベルリン自由大学の3校の総合大学があります。ベルリン自由大学は、戦後アメリカによって設立された大学であるため一番新しく、今年で1度設立50周年の記念の年であります。ドイツの教育システムは日本とは異なっていて、基本的に学費は無料、高校卒業時にAbitur（大学入学資格）の試験に合格すればドイツ国内のどの国立大学にも入学することができます。定期試験は、記述よりもむしろ教授との口頭試験が大きなウェイトを持っています。試験期間に限らず、学生は皆いつも非常によく勉強をしていました。

ベルリン自由大学結晶学研究所には4人の教授が在籍し、それぞれのグループが独立して研究しています。私は、生体内高分子のX線結晶構造解析に取り組んでいるWolfram Saenger教授の元で研究しました。Saengerグループは、Saenger教授を筆頭に7名のポストドク、13名の博士課程の学生、2名のテクニシャンで構成され、X線結晶構造解析を行うグループ、遺伝子操作を行うグループ、光散乱分析を行うグループの3グループがありました。それぞ

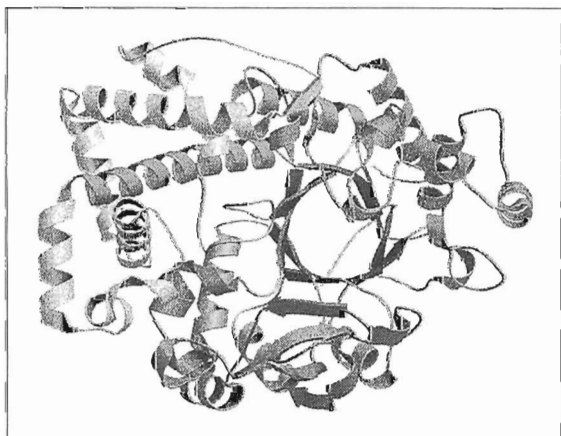


クリスマスパーティーにおいて Saenger 教授と

れのグループが非常にうまく組織的な役割を持って動いていました。

私は、自分の希望で数種の新規タンパク質のX線結晶構造解析に着手しました。一つは、非リボソーム性のペプチド合成を触媒する酵素の2つのサブユニットについて、その精製と結晶化を行いました。もう一方は、好熱菌由来のアミロマルターゼの構造解析を行いました。この酵素は、 α -1,4-グルカンに作用してグルカン鎖を伸長させる酵素です。私は、重原子置換体結晶の作成とデータ測定、初期構造の構築と構造精密化を行い、幸運にも高精度で立体構造を決定することが出来ました。通常、蛋白質の構造解析は十分な設備と時間が必要ですが、構造解析に必要なコンピューター等のハードおよびプログラム等のソフトの両面が非常によく整備されていて、更に経験豊富な研究者がいて適時よいアドバイスが得られたため、研究を円滑に進めることが出来ました。

今振り返りますと、矢のように過ぎ去った1年2カ月でした。日常生活における雑用は全て妻に任せることが出来たため、私は自分の研究に専念することが出来ましたし、妻もドイツ語を習いながらベルリンでの生活を楽しんでいました。また、不安であった子供のことにしても、ベルリン自由大学の付属幼稚園に毎日通いドイツの子供たちと楽しく遊んでいました。このような異国の地で得た経験は、私達家族にとって何事にも換えられない素晴らしいものとなりました。このような素晴らしい経験をさせていただいたことを、本当に感謝いたしております。



好熱菌由来アミロマルターゼの立体構造

平成11年度学校法人予算について

事務局長 河野光次

学校法人大阪薬科大学の平成11年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、収支の均衡を図るべく、計4回にわたる予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成11年3月16日に開催された理事会及び評議員会において承認されたので、消費収支予算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

【学生生徒等納付金】

平成11年度の学費改定（年額5万円値上げ）などを反映し、前年度予算よりも8,700万円増の24億4,950万円を計上した。

【補助金】

私立大学経常費補助金2億5,000万円、研究設備整備費等補助金2500万円及び学術研究振興資金補助金800万円を計上した。

【資産売却差額】

前年度予算では、新堂運動場の土地売却益2億3,000万円が計上されていたが、本年度は発生しない。

【人件費】

退職給与引当金繰入額が前年度予算よりも6,600万円減額となるため、人件費の総額は前年度予算よりも2,540万円減の13億7,050万円となった。

【教育研究経費】

松原校地の建物撤去費（平成10年度は2億3,280万円計上）がなくなるため、前年度予算よりも2億775万円減の8億7,580万円となった。

【管理経費】

野遠運動場の測量、敷地確定費用（平成10年度は2,000万円計上）や松原校地の警備費用（平成10年度は800万円計上）がなくなるため、前年度予算よりも4,459万円減の1億1,810万円となった。

【資産処分差額】

前年度予算では、松原校地の建物撤去損9億5,400万円が計上されていたが、本年度は発生しない。

平成11年度消費収支予算書

{平成11年4月1日から
平成12年3月31日まで}

消費収入の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	2,449,500,000	2,362,500,000	87,000,000
手 数 料	101,100,000	88,100,000	13,000,000
寄 付 金	5,000,000	5,000,000	0
補 助 金	283,200,000	243,700,000	39,500,000
資産運用収入	5,000,000	5,000,000	0
資産売却差額	0	230,000,000	△ 230,000,000
事 業 収 入	28,000,000	2,000,000	26,000,000
雑 収 入	45,000,000	65,700,000	△ 20,700,000
層属収入合計	2,916,800,000	3,002,000,000	△ 85,200,000
基本金組入額合計	△ 464,000,000	△ 255,000,000	△ 209,000,000
消費収入の部合計	2,452,800,000	2,747,000,000	△ 294,200,000

消費支出の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人 件 費	1,370,500,000	1,395,900,000	△ 25,400,000
教育研究経費	875,800,000	1,083,550,000	△ 207,750,000
管 理 経 費	118,100,000	162,690,000	△ 44,590,000
借入金等利息	322,400,000	340,600,000	△ 18,200,000
資産処分差額	0	954,000,000	△ 954,000,000
[予 備 費]	10,000,000	10,000,000	0
消費支出の部合計	2,696,800,000	3,946,740,000	△ 1,249,940,000
当年消費支出超過額	244,000,000	1,199,740,000	△ 955,740,000
前年度繰越消費支出超過額	815,000,000	2,534,000,000	△ 1,719,000,000
翌年度繰越消費支出超過額	1,059,000,000	3,733,740,000	△ 2,674,740,000

□ 人 事 □

併任(平成11年4月1日付)

教務部長 池田 潔(教授)任期2年
学生部長 稲森 善彦(教授)任期2年
研究委員長 石田 寿昌(教授)任期1年

採用(平成11年1月1日付)

助手 宮崎 誠
(平成11年4月1日付)
副手 西堀 崇子
(平成11年5月1日付)
嘱託職員 田村 香子

嘱託(平成11年4月1日付 期間1年)

柚木 孝士(校医)
碓井 信二(教授)

出向(平成11年4月1日付)

中山 基宏(図書課長)

招へい教授(平成11年4月1日付 期間1年)

宮嶋孝一郎(客員研究員)
吉武 彬(客員研究員)
池澤 宏郎(客員研究員)
海老原昭夫(客員研究員)

非常勤講師(平成11年4月1日付)

秋岡 壽(臨床医学概論)
今泉 昌利(臨床医学概論)
太田 光熙(病態生化学)
大前 実(臨床生理学)
片山 善章(臨床化学)
木村 文治(臨床医学概論)
小松 敏彦(体育実技)
斎藤 武(数学1)
塩川 俊男(裁判化学)
田口 侑男(数学1)
巽 典之(臨床検査総論)
戸口 始(剤形開発学)
中塚 宗次(薬事関連法・制度)
中村 益久(臨床薬理学)
中村 恵(ドイツ語1)
鳴川 六司(体育実技)
林 大輔(体育実技)
林 龍平(人文科学特論1)
占川 恵三(臨床医学概論)
榎矢 桂一(ドイツ語3)
村田 吉郎(病態生理学1、病態生理学)

望月伸三郎(体育実技)
柳沢 貴司(人文科学特論3、ドイツ語4)
山内 真理(英語1)
和田 武夫(生物統計学)
渡辺 幹典(社会科学特論1)
Joseph Michael Jacobs(英語3)
Julianne Gay Whitlam(英語3)

外国人客員研究員(平成11年4月1日付 期間半年)

肖 永慶

退任(平成11年3月31日付)

栗原 拓史・教務部長(任期満了)
坂田 勝治・学生部長(任期満了)
玄番 宗一・研究委員長(任期満了)
掛見 正郎・大阪薬科大学附属調剤薬局設置準備
委員長(委嘱を解く)

定年退職(平成11年3月31日付)

碓井 信二(教授)
森本 武司(事務局次長)
北氏 明正(事務局次長兼図書課長)

退職(平成11年6月7日付)

田中 真紀(嘱託職員)

解嘱(平成11年3月31日付)

望月伸三郎(教授)

総務課だより

消防訓練

平成10年12月2日(水)消防訓練が実施された。
午前10時に研究棟5階で出火したとの想定で開始され、講義中の学生を含め、消火・避難訓練が行われた。避難完了後消防署員による屋内消火栓の取扱い説明、教職員による放水訓練の後、グラウンドにて実地の消火訓練を行った。

実験動物慰霊祭

平成10年12月15日(火)12時15分から講堂において日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約200名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われた。

図書館だより

◆ 新着AV資料について

英語・ドイツ語・フランス語のビデオ・CD・カセットテープ語学教材が入りました。外国語会話の入門からコミュニケーション能力をつけたい方のために、4階にはAV利用室が設けられていますので、この機会にぜひ活用してください。資料の貸出もできます。

◆ グループ学習室の配架について

グループ学習室2に下記の国家試験対策の問題集を配架しました。これは教員から寄贈されたものです。室内で自由に利用してください。

必修講座薬剤師国試対策 日局13新版
薬剤師国試問題・解説集 衛生薬学

他38冊

学生課だより

○ 平成11年度学友会執行委員会

執行委員長	山口 訓正	サッカー部
副執行委員長	高山 淳二	レボリューション
総務局長	宇野 哲	アルペンスポーツクラブ
広報渉外局長	説田 路子	硬式庭球部
厚生局長	福田 優基	剣道部
体育局長	野村 剛	ソフトテニス部
文化局長	藤城 綾子	軽音楽部
会計	高橋 悦子	E.S.S.部

○ 平成11年度大薬祭実行委員会

実行委員長	清滝 淳	硬式野球部
副実行委員長	高山 淳二	レボリューション
総務局長	宇野 哲	アルペンスポーツクラブ
イベント部長	福田 優基	剣道部
広報部長	有田 友香	弓道部
装飾部長	西田みづ紀	陸上競技部

平成11年度前期行事予定

- 4. 6(火) 入学式(学部・大学院)
- 4. 7(水) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
- 4. 8(木) 校医講演・新入生健康診断・新入生奨学金ガイダンス
- 4. 9(金) 前期授業開始
- 4.13(火) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の女子)
- 4.14(水) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の男子)
- 4.16(金) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切
午後3時(教務課)
薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 4.21(水) 第84回薬剤師国家試験合格者発表(厚生省)
- 4.30(金) 臨時休業(創立記念日の振替休日)
- 5. 9(日) 創立記念日(休業)
- 5.14(金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
- 6.19(土) 学友会球技大会
- 7. 1(木) 平成12年度大学院修士課程推薦入学試験
- 7. 8(木) 前期授業終了
- 7. 9(金) 前期授業予備日
平成12年度大学院修士課程推薦入学合格者発表
- 7.12(月)
} 前期定期試験
- 7.23(金)
- 7.26(月) 前期定期試験欠席届提出締切 午後1時(教務課)
- 8.20(金) 平成12年度大学院修士課程一般入学試験
- 8.25(水) 前期再試験受験者発表(4年次生)
- 8.27(金) 平成12年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 9. 1(水) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 9. 1(水)
} 前期再試験(4年次生・1~4年次未修得科目)
- 9.17(金)
- 9. 8(水)
} 前期再試験(1~3年次生)
- 9.24(金)
- 9.20(月) 後期授業開始(4年次生)
- 9.27(月) 後期授業開始(1~3年次生)
就職ガイダンス(3年次生)
特別再試験受験者発表(4年次生)

健康管理について

毎年4月上旬に、学校保健法、結核予防法に基づいて、定期健康診断が行われます。健康な学生生活を送るためにも必ず受診するようにしてください。ちなみに、平成11年の受診状況は次の通りとなっています。

また、けがや急病などに対処するため本部・図書館棟1階に保健室が設けられています。医薬品、ベッド、車椅子をはじめ全自動身長体重計、全自動血圧計などが備えられています。この保健室には、看護婦が常駐し、応急手当や病院の手配を行うほか、健康相談や指導も行っています。平成10年度の利用状況は次の通りです。

平成11年度学生定期健康診断受診状況 (4/8, 13, 14)

※全項目受診者数

区 分	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総 計
男子	$\frac{108}{109}$	$\frac{11}{113}$	$\frac{2}{114}$	$\frac{60}{72}$	$\frac{14}{14}$	$\frac{26}{27}$	$\frac{2}{3}$			$\frac{223}{452}$
女子	$\frac{206}{209}$	$\frac{20}{210}$	$\frac{26}{258}$	$\frac{176}{199}$	$\frac{8}{11}$	$\frac{7}{8}$	$\frac{0}{0}$			$\frac{443}{895}$
計	$\frac{314}{318}$	$\frac{31}{323}$	$\frac{28}{372}$	$\frac{236}{271}$	$\frac{22}{25}$	$\frac{33}{35}$	$\frac{2}{3}$			$\frac{666}{1,347}$
受診率	98.7% <99.0>	9.6% <5.6>	7.5% <1.7>	87.1% <90.0>	88.0% <91.7>	94.3% <77.3>	66.7% <->	- <->		49.4% <48.5>

<>内は前年

平成11年度胸部X線受診状況 (4/8, 13, 14)

区 分	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総 計	教職員
男子	$\frac{108}{109}$	$\frac{13}{113}$	$\frac{6}{114}$	$\frac{60}{72}$	$\frac{14}{14}$	$\frac{26}{27}$	$\frac{2}{3}$			$\frac{229}{452}$	$\frac{49}{77}$
女子	$\frac{206}{209}$	$\frac{22}{210}$	$\frac{27}{258}$	$\frac{176}{199}$	$\frac{11}{11}$	$\frac{7}{8}$	$\frac{0}{0}$			$\frac{449}{895}$	$\frac{13}{34}$
計	$\frac{314}{318}$	$\frac{35}{323}$	$\frac{33}{372}$	$\frac{236}{271}$	$\frac{25}{25}$	$\frac{33}{35}$	$\frac{2}{3}$			$\frac{678}{1,347}$	$\frac{62}{111}$
受診率	98.7% <99.0>	10.8% <6.3>	8.9% <2.4>	87.1% <90.0>	100% <97.4>	94.3% <81.8>	66.7% <->	- <->		50.3% <49.4>	55.9% <54.5>

平成10年度保健室利用状況 (H.10.4.1. ~ H.11.3.31)

月	利 用 者 数			利 用 内 容				
	学 生	教職員	計	外科系	内科系	健康指導・相談	休 養	転 送
4	216	11	227	24	30	167	5	1
5	240	14	254	27	35	174	18	0
6	317	21	338	43	57	217	20	1
7	188	23	211	38	30	133	9	1
8	44	6	50	8	10	31	1	0
9	88	17	105	17	25	62	1	0
10	176	22	198	37	64	86	11	0
11	130	24	154	23	50	69	10	2
12	90	27	117	14	45	48	10	0
1	50	24	74	9	31	33	1	0
2	75	26	101	16	39	41	5	0
3	26	32	58	6	35	15	2	0
合計	1,640	247	1,887	262	451	1,076	93	5

外科系 → ガーゼ交換・湿布交換を含む。

健康指導・相談 → 健康診断受診証明の発行・検尿・血圧検査、身長・体重測定等を含む。

◆ 平成11年度公開教育講座

第20回 公開教育講座

「糖尿病とその治療の最前線」

開催日時：平成11年5月22日(土) 13時30分～

場 所：大阪薬科大学 講堂(各回共通)

「生活習慣病と食生活—糖尿病の食事療法を中心に—」

前兵庫医科大学病院栄養部長 山辺 節子

(武庫川女子大学非常勤講師)

「糖尿病の病態と治療をめぐる最近の進歩」

京都大学大学院医学研究科教授 清野 裕

第21回 公開教育講座

「ターミナルケアの最前線」

開催日時：平成11年7月17日(土) 13時30分～

「ホスピスの現場から見た終末期医療」

淀川キリスト教病院ホスピス副院長 池永 昌之

「おうじょうしまっせー緩和医療」

京都桂病院薬剤科 中西 弘和

第22回 公開教育講座 (講演内容等未定)

開催日時：平成11年10月23日(土) 13時30分～

第23回 公開教育講座 (講演内容等未定)

開催日時：平成12年2月19日(土) 13時30分～

◆ 平成11年度市民講座

大阪薬科大学第7回市民講座

開催日時：平成11年6月19日(土) 13時30分～

場 所：大阪薬科大学 講堂

「高血圧症とくすり」

大阪医科大学教授(薬理学) 宮崎 瑞夫

「慢性腎不全の治療—人工透析と腎臓移植—」

(医) 仁真白鷺病院病院長 金 昌雄

そ の 他：『薬用植物園の見学』、『くすりの相談室』

大阪薬科大学第8回市民講座

開催日時：平成11年10月30日(土) 13時30分～

場 所：大阪薬科大学 講堂

(講演内容等未定)

そ の 他：『くすりの相談室』

◆ オープンキャンパス

大阪薬科大学オープンキャンパス '99

開催日時：平成11年8月4日(水)、30日(月) 13時～

内 容：平成12年度入試概要の説明、模擬実験他

平成11年度 文部省科学研究費補助金採択状況

	職名	氏名	研究種目	研 究 課 題	配分額 (千円)
継続	助教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	シグマレセプター及びシグマレセプター発現性脳腫瘍の核医学画像診断剤の開発	600
	助手	大石 宏文	基盤研究(C)	PolyamineとZ-DNAの相互作用についての構造科学的研究	200
	教授	池田 潔	基盤研究(C)	ホスホリパーゼ類の触媒機構の解明	600
	助教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	高血圧性腎障害におけるエンドセリン-1の役割	600
	教授	沼田 敦	基盤研究(C)	海洋生物由来菌類の産生する抗腫瘍性リード化合物の開発と創製	1,200
	助教授	井上 晴嗣	基盤研究(C)	ロイシンリッチリピートを持つホスホリパーゼA ₂ 阻害タンパク質の構造と機能	800
	助手	高岡 昌徳	基盤研究(C)	高血圧発症過程における血管壁プロテアソームの機能的役割	800
	助教授	春沢 信哉	萌芽的研究	強力なH ₃ -アゴニスト活性をもつ新規イミダゾールC-ヌクレオシドの設計と合成	500
	助手	平田 雅彦	奨励研究(A)	癌の診断と治療を目指した新規SPECT用EGFRチロシンキナーゼ活性診断薬の開発	600
新規	教授	栗原 拓史	基盤研究(C)	新規ヒスタミンH ₃ アゴニストImifuramineの開発とその展開	1,100
	助教授	三野 芳紀	基盤研究(C)	ダイオキシン類の生物分解と無毒化に関する基礎研究	1,300
	助手	佐久間 寛	奨励研究(A)	分子生物学的手法による腎臓質のアラキドン酸由来生理活性物質産生調節機構の解明	900
	助手	藤井 忍	奨励研究(A)	B. cereus菌由来スフィンゴミエリナーゼの立体構造と触媒機構の解明	1,400
	日本学術振興会外国人特別研究員	沈 旭	特別研究員奨励費	組換えヒトeIF-4Eの構造解析研究	1,000
研究分担	助手	大石 宏文	基盤研究(C)	GCおよびAT選択的な新規リガンドを基本とするDNA配列認識分子の創製	150
合計		15人			11,750

平成12年度 入 学 試 験 概 要

	一般公募制推薦入試 (S方式)	一般入試C方式 (センター試験利用入試)	一般入試F方式	一般入試G方式	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)
募集人員(薬学部)	60名	20名	80名	80名	若干名
出願開始日	平成11年11月1日(月)	平成12年1月7日(金)	平成12年1月7日(木)	平成12年1月7日(金)	平成11年11月1日(月)
締切日	平成11年11月9日(火) 郵送	平成12年1月18日(火) 郵送 平成12年1月19日(水) のみ 持参可	平成12年1月25日(火) 郵送 平成12年1月26日(水) のみ 持参可	平成12年2月3日(木) 郵送 平成12年2月4日(金) のみ 持参可	平成11年11月9日(火) 郵送
入学試験日	平成11年11月14日(日)	平成12年1月15日(土) 平成12年1月16日(日)	平成12年2月1日(火)	平成12年2月9日(水)	平成11年11月14日(日)
合格発表日	平成11年12月1日(水)	平成12年2月7日(月)	平成12年2月7日(月)	平成12年2月16日(水)	平成11年12月1日(水)
入学手続締切日	平成11年12月22日(水) (一括方式)	1次 平成12年2月23日(休) 2次 平成12年3月23日(休) (2段階方式)	1次 平成12年2月23日(休) 2次 平成12年3月23日(休) (2段階方式)	1次 平成12年2月23日(休) 2次 平成12年3月23日(休) (2段階方式)	平成11年12月22日(水) (一括方式)
試験場	本 学		本学・大阪予備校・広島ガーデンパレス	本 学・大阪予備校	本 学
試験内容 (時間・配点)	[総合科目] 120分 100点 [小論文] 90分 50点 [調査書] 全体の評定平均値 50点	[外国語] 英語 200点 [数 学] 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 [国 語] 国語Ⅰ、国語Ⅰ・国語Ⅱ から1科目選択 200点 [理 科] 化学ⅠB、生物ⅠB、物理ⅠB のうち最高得点科目を採用 100点×2 200点 本学の個別試験は課さない 計 200点+提出書類	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB、化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB、生物Ⅱ) から1科目選択(受験時) [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数 と複素数平面) [調査書] 150点 (数学、外国語、理科の評定平均値 各25点) (全体の評定平均値 75点) 計 400点	[理 科] 100点 化学(化学ⅠB、化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB、生物Ⅱ) から1科目選択(受験時) [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数 と複素数平面) 計 300点	[総合科目] 120分 [小論文] 90分 [面接]
入学検定料	35,000円	20,000円	35,000円	35,000円	35,000円
学科配属	薬学部一括で募集する(配属学科は学年進行後に決定する)				

平成11年度
各部・委員会・委員一覧

	◎各部署の長 ○副委員長 (平成11年6月1日現在)	大桃 善朗(助教授) 松尾 真充(総務課長)	安田 正秀(講師)
教務部	◎池田 潔(教授) 中元 安雄(助教授) 楠瀬 健昭(助教授)	薬剤師国家試験対策委員会 赤木 昌夫(助教授) 松村 靖夫(助教授) 土井 光暢(助教授)	◎中元 安雄(助教授) 三野 芳紀(助教授) 黒田 和道(助教授) 安田 正秀(講師)
草野源次郎(教授) 黒田 和道(助教授) 齊藤 陸弘(講師)		医療薬学実習委員会 千熊 正彦(教授) 赤木 昌夫(助教授) 三野 芳紀(助教授)	◎田中 一彦(教授) 掛見 正郎(教授) 中元 安雄(助教授) 西野 隆雄(講師)
学生部	◎稲森 善彦(教授) 濱中久美子(助教授) 大桃 善朗(助教授)	入試制度委員会 千熊 正彦(教授) 藤田 芳一(助教授) 辻坊 裕(助教授)	◎土井 勝(教授) 加藤 義春(助教授) 松島 哲久(助教授) 大桃 善朗(助教授)
土井 勝(教授) 辻坊 裕(助教授) 齊藤 陸弘(講師)		入試委員会 ◎森 逸男(教授) 稲森 善彦(教授) 松村 瑛子(助教授)	◎岡 源郎(学長) 池田 潔(教授) 土井 勝(教授) 大桃 善朗(助教授)
就職部	◎沼田 敦(教授) 藤本 陽子(助教授)	大学院小委員会 玄番 宗一(教授) 千熊 正彦(教授)	◎森 逸男(教授) 石田 寿昌(教授)
稲森 善彦(教授) 土井 光暢(助教授)		カリキュラム委員会 石田 寿昌(教授) 松島 哲久(助教授)	◎森 逸男(教授) 加藤 義春(助教授) 楠瀬 健昭(助教授)
図書館	◎千熊 正彦(教授) 松島 哲久(助教授) 大桃 善朗(助教授)	薬学教育検討委員会	◎岡 源郎(学長)
赤木 昌夫(助教授) 松村 靖夫(助教授) 井上 晴嗣(助教授)		修学指導委員会 ◎石田 寿昌(教授) 稲森 善彦(教授)	◎岡 源郎(学長) 沼田 敦(教授) 坂田 勝治(教授)
研究委員会	◎石田 寿昌(教授) 有本 正生(助教授)	人権委員会 沼田 敦(教授) 坂田 勝治(教授) 加藤 義春(助教授) 藤田 純生(学生課長)	◎稲森 善彦(教授) 池田 潔(教授) 阿部 功(助教授) 松島 哲久(助教授)
田中 一彦(教授) 井上 晴嗣(助教授)		交通整備委員会 ◎稲森 善彦(教授) 河野 光次(事務局長)	◎岡 源郎(学長) 池田 潔(教授)
広報委員会	◎森 逸男(教授) 池田 潔(教授) 稲森 善彦(教授) 千熊 正彦(教授) 内田 勝彦(就職課長) 中山 基宏(図書課長) 高橋 嘉明(総務課主任)	総務委員会 森 逸男(教授) 栗原 拓史(教授)	◎岡 源郎(学長) 沼田 敦(教授) 池田 潔(教授)
沼田 敦(教授) 玄番 宗一(教授) 石田 寿昌(教授) 伊藤 美雄(入試・広報課長) 藤田 純生(学生課長) 古本 浩三(教務課長補佐)			
公開教育講座委員会	◎千熊 正彦(教授) 松島 哲久(助教授) 西野 隆雄(講師)		
田中 一彦(教授) 松村 靖夫(助教授)			
市民講座委員会	◎玄番 宗一(教授) 大桃 善朗(助教授) 西野 隆雄(講師) 福永 治久(入試・広報課長補佐)		
田中 一彦(教授) 土井 光暢(助教授) 伊藤 美雄(入試課長)			
動物実験委員会	◎池田 潔(教授) 加藤 義春(助教授) 松村 瑛子(助教授)		
稲森 善彦(教授) 馬場きみ江(助教授)			

稲森 善彦 (教授)	石田 寿昌 (教授)	掛見 正郎 (教授)	松村 靖夫 (助教授)
千熊 正彦 (教授)	河野 光次 (事務局長)	黒田 和道 (助教授)	大桃 善朗 (助教授)
		河野 光次 (事務局長)	

予算委員会

岡 源郎 (学 長)	◎大村栄之助 (理事長)	組換えDNA実験安全委員会	◎石田 寿昌 (教授)
沼田 敦 (教授)	藤田 武司 (理 事)	池田 潔 (教授)	稲森 善彦 (教授)
池田 潔 (教授)	栗原 拓史 (教授)	草野源次郎 (教授)	松島 哲久 (助教授)
石田 寿昌 (教授)	稲森 善彦 (教授)	藤本 陽子 (助教授)	黒田 和道 (助教授)
河野 光次 (事務局長)	千熊 正彦 (教授)	大桃 善朗 (助教授)	河野 公一 (学 外)
	秋月 延夫 (経理課長)	松尾 真充 (総務課長)	

自己評価委員会

森 逸男 (教授)	◎岡 源郎 (学 長)	バイオハザード予防委員会	◎稲森 善彦 (教授)
池田 潔 (教授)	沼田 敦 (教授)	池田 潔 (教授)	松村 瑛子 (助教授)
土井 勝 (教授)	稲森 善彦 (教授)	安田 正秀 (講 師)	
千熊 正彦 (教授)	石田 寿昌 (教授)		
河野 光次 (事務局長)	藤田 芳一 (助教授)		

施設委員会

森 逸男 (教授)	◎岡 源郎 (学 長)	情報科学解析センター運営委員会	◎石田 寿昌 (教授)
栗原 拓史 (教授)	沼田 敦 (教授)	池田 潔 (教授)	稲森 善彦 (教授)
稲森 善彦 (教授)	池田 潔 (教授)	土井 勝 (教授)	千熊 正彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)	石田 寿昌 (教授)	掛見 正郎 (教授)	土井 光暢 (助教授)
	河野 光次 (事務局長)	大石 宏文 (助 手)	伊藤 美雄 (入試課長)
		高橋 正好 (教務課長)	藤田 純生 (学生課長)
		中山 基宏 (図書課長)	古本 浩三 (教務課長)
		澤田あつ子 (図書課係長)	高橋 嘉明 (総務課主任)

環境保全委員会

藤田 直 (教授)	◎石田 寿昌 (教授)	大型共同機器整備計画委員会	◎石田 寿昌 (教授)
稲森 善彦 (教授)	池田 潔 (教授)	森 逸男 (教授)	沼田 敦 (教授)
濱中久美子 (助教授)	木村捷二郎 (助教授)	池田 潔 (教授)	玄番 宗一 (教授)
齊藤 睦弘 (講 師)	黒田 和道 (助教授)	土井 勝 (教授)	馬場きみ江 (助教授)
喜多 俊二 (助 手)	高岡 昌徳 (助 手)	黒田 和道 (助教授)	大桃 善朗 (助教授)
後久 忠雄 (施設課長)	宇佐美吉英 (助 手)		
鶴田 政樹 (施設課員)	増家 博 (学生課主任)		

防火対策委員会

森 逸男 (教授)	◎岡 源郎 (学 長)	薬用植物園	◎草野源次郎 (教授)
池田 潔 (教授)	栗原 拓史 (教授)	沼田 敦 (教授)	馬場きみ江 (助教授)
石田 寿昌 (教授)	稲森 善彦 (教授)	木村捷二郎 (助教授)	三野 芳紀 (助教授)
高橋 正好 (教務課長)	河野 光次 (事務局長)	田中 麗子 (助教授)	西野 隆雄 (講 師)
藤田 純生 (学生課長)	松尾 真充 (総務課長)	喜多 俊二 (助 手)	谷口 雅彦 (助 手)
中山 基宏 (図書課長)	後久 忠雄 (施設課長)	芝野真喜雄 (助 手)	後久 忠雄 (施設課長)

省エネルギー委員会

◎栗原 拓史 (教授)	◎岡 源郎 (学 長)	実験動物センター運営委員会	◎藤田 直 (教授)
稲森 善彦 (教授)	池田 潔 (教授)	池田 潔 (教授)	玄番 宗一 (教授)
河野 光次 (事務局長)	石田 寿昌 (教授)	掛見 正郎 (教授)	松村 瑛子 (助教授)
	後久 忠雄 (施設課長)	松村 靖夫 (助教授)	辻坊 裕 (助教授)
		大桃 善朗 (助教授)	安田 正秀 (講 師)
		西野 隆雄 (講 師)	

R I 施設運営委員会

藤田 直 (教授)	◎木村捷二郎 (助教授)	学歌選定委員会	◎岡 源郎 (学 長)
稲森 善彦 (教授)	玄番 宗一 (教授)	大村栄之助 (理事長)	松村 瑛子 (助教授)
千熊 正彦 (教授)	石田 寿昌 (教授)	濱中久美子 (助教授)	河野 光次 (事務局長)
	草野源次郎 (教授)	栗田 稔 (同窓会長)	高橋 市子 (同窓会副会長)

教員研究業績一覽 (1998年)

(1998. 1. 1~12. 31)

1. 研究学術論文

著者	題目	掲載誌
土井光暢, 木下和恵, 浅野晶子, 米田龍司, 栗原拓史, 石田寿昌	<i>N</i> -Benzyl- <i>N</i> -(<i>tert</i> -butyloxycarbonyl)-glycine, an <i>N</i> -substituted glycine (peptoid) monomer	Acta Crystallogr., C 54, 1164 (1998)
土井光暢, 樽井麻里子, 緒方美保子, 浅野晶子, 石田寿昌, 他	A cytosine and tryptophan hybrid dipeptide: cytosiny-L-tryptophan-water (2/6)	Acta Crystallogr., C 54, 1941 (1998)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Crystal structure of 3,4-dihydroxy-6-fluoro-DL- phenylalanine monohydrate used as a positron emission tomography imaging ligand	Anal. Sci., 14, 1189 (1998)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Polymorphism and C-H...O interaction of wortmannin, a phosphatidylinositol 3- kinase inhibitor.	Anal. Sci., 14, 1191 (1998)
土井光暢, 他	Refined crystal structure of methylamine de- hydrogenase from <i>Paracoccus denitrificans</i> at 1.75 Å resolution.	J. Mol. Biol., 276, 131 (1998)
土井光暢, 石田寿昌, 他	C ^α -Methyl, C ^α -phenylglycine peptides: A structural study	Lett. Peptide Sci., 5, 223 (1998)
石田寿昌, 他	X-Ray crystal structure of papain complexed with cathepsin B-specific covalent-type in- hibitor: substrate specificity and inhibitory activity	Biochim. Biophys. Acta, 1383, 93 (1998)
石田寿昌, 他	Three-dimensional molecular modeling explains why catalytic function for angio- tensin-1 is different between human and rat chymases	Biochem. Biophys. Res. Commun., 242, 158 (1998)
柴田理志, 森野重信, 友尾幸司, 尹 康子, 石田寿昌	Effect of mRNA cap structure on eIF-4E phos- phorylation and cap binding analyses using Ser209-mutated eIF-4Es	Biochem. Biophys. Res. Commun., 242, 213 (1998)
石田寿昌, 三原義鉄, 濱由美子, 花谷明美, 樽井麻里子, 土井光暢	Spectroscopic investigation on the interaction of NCA0424, a potent antitumor indolo- quinoxaline derivative, with DNA	Chem. Pharm. Bull., 46, 739 (1998)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Isomerization of dimeric 2,9-disubstituted 1- oxaquinolizidine alkaloids and structural revision of araguspongines A and E, isolated from a marine sponge of <i>Xestospongia</i> SP.	Heterocycles, 47, 195 (1998)
西 規子, 森野重信, 友尾幸司, 陽谷 武, 石田寿昌	Expression of a synthetic gene for initiation factor 4E-binding protein 1 in <i>Escherichia</i> <i>coli</i> and its interaction with eIF-4E and eIF- 4E • m ⁷ GTP complex	J. Biochem., 123, 157 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
尹 康子, 石田寿昌, 他	Total synthesis of (-)-macrocarpal C. Stereoselective coupling reaction with a novel hexa-substituted benzene Cr(CO) ₃ complex as a biomimetic chiral benzyl cation equivalent	J. Org. Chem., 63, 9782 (1998)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Brasilicardin A. A novel tricyclic metabolite with potent immunosuppressive activity from actinomycete <i>Nocardia brasiliensis</i>	J. Org. Chem., 63, 6900 (1998)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Stereoselective epoxidation of 4(20)-exomethylene in taxinine derivatives and assignment of the epoxide orientation by NMR	Tetrahedron, 54, 2521 (1998)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Occurrence of a new dimeric compound of 5-oxotaxinine A through Diels-Alder cycloaddition	Tetrahedron Lett., 39, 2159 (1998)
石田寿昌, 他	Asymmetric synthesis of α , β -epoxysulfones under phase-transfer catalyzed darzens reaction	Tetrahedron Lett., 39, 8299 (1998)
大石宏文, 浦田秀仁, 赤木昌夫, 他	A (+)-cyclocytidine analogue with a low-anti conformation around the glycosyl bond	Acta Crystallogr., C 54, 980 (1998)
大石宏文, 他	Stereoselective synthesis of a 2,2,5-trisubstituted tetrahydropyran chiron via 1,3- and 1,6-asymmetric induction: A total synthesis of (-)-malyngolide	Tetrahedron, 54, 13087 (1998)
藤田芳一, 森 逸男, 松尾敬子	Spectrophotometric determination of ethylenediaminetetraacetic acid and its related compounds with p-carboxyphenyl fluorone, titanium(IV) and hydrogen peroxide	Anal. Sci., 14, 1157 (1998)
森 逸男, 高崎健一, 藤田芳一, 松尾敬子	Selective and sensitive fluorometric determination of cobalt(II) and hydrogen peroxide with fluorescein-hydrazide	Talanta, 47, 631 (1998)
齋藤睦弘, 本田正宏, 千熊正彦	Heparin-selenocystamine conjugate with selenol groups	Biol. Pharm. Bull., 21, 805 (1998)
米田祥子, 齋藤睦弘, 千熊正彦	低分子セレン化合物の Ehrlich 腹水癌細胞に対する細胞毒性に関する検討	Biomed. Res. Trace Elements, 9, 189 (1998)
木村捷二郎, 宮村知宇, 前田茂雄, 岩本晶子	エチルアルコール中のトリチウム測定法の開発と日本酒の成分別分析への適用	衛生化学, 44, 428 (1998)
木村捷二郎, 泰松明子, 他	Microbial contamination of the crude drude "Senna leaf" and their radiation sensitivity to γ -ray irradiation	Bull. Osaka Pref. Univ. Series B, 50, 67 (1998)
木村捷二郎, 内山浩幸	大気トリチウムの濃度変動と迅速測定を試み	KURRI-KR-30, 175 (1998)
天形太郎, 宇佐美吉英, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Cytotoxic substances produced by a fungal strain from a sponge: Physico-chemical properties and structures	J. Antibiot., 51, 33 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
岩本千佳, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Penostatins F-1, novel cytotoxic metabolites from a <i>Penicillium</i> species separated from an <i>Enteromorpha</i> marine alga	J Chem. Soc. Perkin Trans., 1, 449 (1998)
天形太郎, 土井光暢, 太田尚稔, 箕浦克彦, 沼田 敦	Absolute stereostructures of novel cytotoxic metabolites, gymnastatins A-E, from a <i>Gymnascella</i> species separated from a <i>Halichondria</i> sponge	J Chem. Soc. Perkin Trans., 1, 3585 (1998)
天形太郎, 箕浦克彦, 沼田 敦	Gymnasterones, novel cytotoxic metabolites produced by a fungal strain from a sponge	Tetrahedron Lett., 39, 8773 (1998)
天形太郎, 箕浦克彦, 沼田 敦	Cytotoxic metabolites produced by a fungal strain from a <i>Sargassum</i> alga	J. Antibiot., 51, 432 (1998)
米田龍司, 荒木理佐, 春沢信哉, 栗原拓史	Studies on the [2,3]-Meisenheimer rearrangement of 2-vinylazetidines <i>N</i> -oxides	Chem. Pharm. Bull., 46, 853 (1998)
浦田秀仁, 宮腰英貴, 角矢 仁, 徳元秀樹, 赤木昌夫, 他	Design and racemic synthesis of conformationally restricted carbocyclic pyrimidine nucleoside analogs based on the structure of the L-nucleoside residue in heterochiral DNA	Chem. Pharm. Bull., 46, 458 (1998)
高平正行, 草野昭子, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Antimalarial activity and nucleoside transport inhibitory activity of the triterpenic constituents of <i>Cimicifuga</i> spp.	Biol. Pharm. Bull., 21, 823 (1998)
高平正行, 草野源次郎, 他	Vasoactive effects of cimicifugic acids C and D, and fukinolic acid in <i>Cimicifuga</i> rhizome	Biol. Pharm. Bull., 21, 1163 (1998)
三野芳紀, 他	Characterization of Fe(III)-deferoxamine and Mn(II)-pectin as magnetic resonance imaging contrast agents	Biol. Pharm. Bull., 21, 1385 (1998)
高平正行, 草野昭子, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Three new fukiic acid esters, cimicifugic acid A, B and C, from <i>Cimicifuga simplex</i> WORMSK.	Chem. Pharm. Bull., 46, 362 (1998)
草野昭子, 高平正行, 芝野真喜雄, 尹 康子, 石田寿昌, 草野源次郎, 他	Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XX. Absolute stereostructures of cimicifugoside and actein from <i>Cimicifuga simplex</i> WORMSK.	Chem. Pharm. Bull., 46, 467 (1998)
草野昭子, 高平正行, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XXI. Two new cyclolanostanol xylosides, bugbanosides A and B from <i>Cimicifuga simplex</i> WORMSK.	Chem. Pharm. Bull., 46, 1001 (1998)
芝野真喜雄, 中村仁子, 赤澤直美, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Broussonetia</i> species. III. Two new pyrrolidine alkaloids, broussonetines G and H, as inhibitors of glycosidases, from <i>Broussonetia kazinoki</i> SIEB.	Chem. Pharm. Bull., 46, 1048 (1998)
芝野真喜雄, 中村仁子, 窪利政三, 箕浦克彦, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Broussonetia</i> species. IV. Pyrrolidinylpiperidine alkaloids, broussonetines I and J, from <i>Broussonetia kazinoki</i> SIEB.	Chem. Pharm. Bull., 46, 1416 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
草野源次郎, 他	Lepiotins A and B, new alkaloids from the mushrooms, <i>Macrolepiota neomastoidea</i> and <i>Chlorophyllum molybdites</i>	Heterocycles, 47, 883 (1998)
草野昭子, 高平正行, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Structures of two new cyclolanostanol xyloside, cimiacerosides A and B	Heterocycles, 48, 1003 (1998)
芝野真喜雄, 松本吉広, 中尾江里子, 逸見文子, 草野源次郎, 他	Studies on index compounds for HPLC analysis of <i>Glycyrrhiza glabra</i>	Nat. Med., 52, 279 (1998)
芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	シチリア島とスペインにおける <i>Glycyrrhiza glabra</i> L. の調査研究	Nat. Med., 52, 259 (1998)
高平正行, 柳 正和, 草野昭子, 芝野真喜雄, 馬場きみ江, 草野源次郎, 他	Phenolic constituents of <i>Cimicifuga</i> species rhizomes.	Nat. Med., 52, 330 (1998)
中村誓志, 芝野真喜雄, 西村啓史, 抜井久司, 草野源次郎	Flavonoid glycosides, α -glucosidase inhibitors, from leaves of <i>Zizyphus jujuba</i> MILL. var. <i>inermis</i> REHD.	Nat. Med., 52, 372 (1998)
三野芳紀, 安田圭造	Amino acid sequence of ferredoxin from <i>Physalis alkekengi</i> var. <i>francheti</i>	Phytochemistry, 49, 1631 (1998)
高平正行, 草野昭子, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Picidic acid and fukiic acid esters from <i>Cimicifuga simplex</i>	Phytochemistry, 49, 2115 (1998)
谷口雅彦, 藪 明子, 羽田容介, 馬場きみ江, 他	Rivulobirins C and D, two novel new spirobi-coumarins, from the underground part of <i>Pleurospermum rivulorum</i>	Chem. Pharm. Bull., 46, 1065 (1998)
谷口雅彦, 藪 明子, 羽田容介, 馬場きみ江, 他	Rivulotririns A and B from <i>Pleurospermum rivulorum</i>	Chem. Pharm. Bull., 46, 1946 (1998)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Norepinephrine-augmenting lipolytic effectors from <i>Astilbe thunbergii</i> rhizomes	J. Nat. Prod., 61 1006 (1998)
谷口雅彦, 藤原亜紀子, 馬場きみ江, 他	Two biflavonoids from <i>Daphne actiloba</i>	Phytochemistry, 49, 863 (1998)
和印俊一, 田中麗子, 松永春洋, 他	<i>In vitro</i> inhibitory effects of DNA topoisomerase II by fernane type triterpenoids isolated from a <i>Euphorbia</i> genus	Bioorg. Med. Chem. Lett., 8, 2829 (1998)
大津博則, 田中麗子, 松永春洋	18-nor-A bietatrienes from the cones of <i>Larix kaempferi</i>	J. Nat. Prod., 61, 406 (1998)
大津博則, 田中麗子, 松永春洋	Abietane diterpenoids from the cones of <i>Larix kaempferi</i>	J. Nat. Prod., 61, 1307 (1998)
田中麗子, 辻本和広, 松永春洋, 他	Two serratane triterpenes from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i>	Phytochemistry, 47, 839 (1998)
大津博則, 田中麗子, 松永春洋, 他	Tetracyclic triterpenes and other constituents from the leaves and bark of <i>Larix kaempferi</i>	Phytochemistry, 49, 1761 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
藤井 忍, 銘田美樹, 谷 健, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	pH Dependence of the reaction rate of ρ -bromophenacyl bromide and of the binding constant of Ca^{2+} and an amide-type substrate analog to bovine pancreatic phospholipase A_2	Arch. Biochem. Biophys., 354, 73 (1998)
藤井 忍, 池田 潔, 他	Design and synthesis of new secretory phospholipase A_2 inhibitor of a phospholipid analog	Bioorg. Med. Chem. Lett., 8, 3495 (1998)
藤井 忍, 井上文平, 山本博紀, 緒方賢次, 新木知宏, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Mg^{2+} binding and catalytic function of sphingomyelinase from <i>Bacillus cereus</i>	J. Biochem., 124, 1178 (1998)
奥村幸治, 大蔵直樹, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三	A novel phospholipase A_2 inhibitor with leucine-rich repeats from the blood plasma of <i>Agkistrodon blomhoffii siniticus</i> : Sequence homologies with human leucine-rich α_2 -glycoprotein	J. Biol. Chem., 273, 19469 (1998)
藤井 忍, 池田 潔, 他	Synthesis of a new phospholipase A_2 inhibitor of an aldehyde terpenoid and its possible inhibitory mechanism	Tetrahedron Lett., 39, 1185 (1998)
藤田 直, 佐久間覚, 山本奈穂, 藤本陽子	Effects of eicosapentaenoic acid and its 15-hydroperoxy and 15-hydroxy derivatives on glucosamine synthetase activity in rabbit gastric mucosa	Biochem. Mol. Biol. Int., 46, 157 (1998)
原久美子, 高見勇人, 藤田 直, 他	12-Hydroxyeicosatetraenoic acid directly potentiates angiotensin II-induced vascular contraction	Eur. J. Pharmacol., 358, 161 (1998)
藤本陽子, 佐久間覚, 小松佐和子, 佐藤大輔, 西田裕子, 馬場きみ江, 藤田 直	Inhibition of 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase activity in rabbit gastric antral mucosa by panaxynol isolated from oriental medicines	J. Pharm. Pharmacol., 50, 1075 (1998)
佐久間覚, 藤本陽子, 角森正英, 多賀野真哉, 西田裕子, 馬場きみ江, 藤田 直	Effects of daphnodorin A, B and C, new flavans isolated from traditional Chinese medicine, on the 12-lipoxygenase and cyclooxygenase metabolism of arachidonic acid in rabbit platelets	Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids, 58, 143 (1998)
藤本陽子, 多賀野真哉, 小川香織, 佐久間覚, 藤田 直	Comparison of the effects of nitric oxide and peroxynitrite on the 12-lipoxygenase and cyclooxygenase metabolism of arachidonic acid in rabbit platelets	Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids, 59, 95 (1998)
西野隆雄, 他	黄連解毒湯坐剤の臨床評価に関する検討	近畿中央病院医学雑誌, 19, 53 (1998)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 谷田有里, 太口由子, 森本史郎, 他	Antihypertensive effect of sesamin. III. Protection against development and maintenance of hypertension in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	Biol. Pharm. Bull., 21, 469 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
橋本哲郎, 黒 敏彦, 藤田克哉, 東 悟史, 松村靖夫	Endothelin ET _B receptor-mediated action in systemic and renal hemodynamics and urine formation of deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertensive rats	Biol. Pharm. Bull., 21, 800 (1998)
松村靖夫, 黒 敏彦, 橋本哲郎, 平 志麻	Effects of FR 139317 on renal responses to acute nitric oxide blockade in anaesthetized rats	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 25, 441 (1998)
只野清史, 松尾 弦, 橋本貴至, 松村靖夫	Effects of FK 409, a nitric oxide donor, on renal responses to renal nerve stimulation in anesthetized dogs	Eur. J. Pharmacol., 341, 191 (1998)
喜多紗斗美, 太口由子, 茶谷朱美子, 松村靖夫	Effects of endothelin-1 on norepinephrine-induced vasoconstriction in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats	Eur. J. Pharmacol., 344, 53 (1998)
岡本尚子, 高岡昌徳, 大喜多守, 伊藤 誠, 西岡弥緒, 松村靖夫	A proteasome inhibitor lessens the increased aortic endothelin-1 content in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats	Eur. J. Pharmacol., 350, R11 (1998)
喜多紗斗美, 太口由子, 松村靖夫	Endothelin-1 enhances pressor responses to norepinephrine: Involvement of endothelin-B receptor	J. Cardiovasc. Pharmacol., 31 (Suppl. 1), S119 (1998)
松村靖夫, 西浦 学, 出口昇吾, 瀬尾瑠美, 他	Protective effect of FK409, a spontaneous nitric oxide releaser, on ischemic acute renal failure in rats	J. Pharmacol. Exp. Ther., 287, 1084 (1998)
橋本哲郎, 黒 敏彦, 平 志麻, 松村靖夫	Different contribution of ET-1 and ET _A receptor to hypertension induced by acute or chronic inhibition of NO synthesis	J. Pharm. Pharmacol., 50, 1051 (1998)
高岡昌徳, 岡本尚子, 伊藤 誠, 西岡弥緒, 喜多紗斗美, 松村靖夫	Antihypertensive effect of a proteasome inhibitor in DOCA-salt hypertensive rats	Life Sci., 63, PL65 (1998)
玄番宗一, 他	Relationship between the skin permeation movement of propranolol and skin inflammatory reactions	Biol. Pharm. Bull., 21, 938 (1998)
玄番宗一, 他	Comparative toxic effects of iobitridol and iohexol on the kidney	Invest. Radiol., 33, 393 (1998)
辻坊 裕, 折越英介, 塩谷佳代子, 林 美幸, 梅田純子, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Characterization of chitinase C from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7, and its corresponding gene and domain structure	Appl. Environ. Microbiol., 64, 472 (1998)
辻坊 裕, 島野尚哉, 三上雅久, 平澤綾子, 宮本勝城, 稲森善彦	A novel β -N-acetylglucosaminidase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520: gene cloning, expression, and assignment to family 3 of the glycosyl hydrolases	Appl. Environ. Microbiol., 64, 2920 (1998)
辻坊 裕, 島野尚哉, 三上雅久, 和泉澤裕司, 宮本勝城, 稲森善彦	Cloning, characterization and expression of β -N-acetylglucosaminidase gene from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Biochem. Biophys. Acta, 1425, 437 (1998)

著 者	題 目	掲 載 誌
稲森善彦, 岡本征子, 竹川陽子, 辻坊 裕, 沼田 敦, 他	Insecticidal and antifungal activities of aminorhodanine derivatives	Biosci. Biotechnol. Biochem., 62, 1025 (1998)
宮本勝城, 辻坊 裕, 引田有美, 田中和美, 宮本さとみ, 菱本真理子, 稲森善彦, 他	Cloning and nucleotide sequence of the gene encoding a serine proteinase inhibitor named marinostatin from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain B-10-31	Biosci. Biotechnol. Biochem., 62, 2446 (1998)
草野源次郎, 高平正之, 芝野真喜雄, 草野昭子, 岡本征子, 辻坊 裕, 沼田 敦, 稲森善彦	Studies on inhibitory activities of fukiic acid esters on germination, α -amylase and carboxypeptidase A	Biol. Pharm. Bull., 21, 997 (1998)
辻坊 裕, 他	Some characterization of a natural source bacterium (B-3) decomposing the ferric chelate of EDTA	Environ. Sci., 11, 341 (1998)
宮本勝城, 他	Construction of a new cloning vector utilizing a cryptic plasmid and the highly expressed melanin-synthesizing gene operon from <i>Streptomyces castaneoglobisporus</i>	FEMS Microbiol. Lett., 168, 195 (1998)
徐 紅, 鶴岡浩志, 黒田和道, 保坂康弘, 他	Isolation of type B influenza virus from the blood of children	Clin. Infect. Dis., 27, 654 (1998)
保坂康弘, 黒田和道, 池浦啓博, 岩本 勉, 他	Binding of influenza and paramyxoviruses to group B Streptococcus with the terminal sialygalactose linkage	J. Electron Microsc., 47, 169 (1998)
保坂康弘, 岩本 勉, 黒田和道, 鶴岡浩志, 他	Ultrastructure of murine tumour cell lines defective in MHC class I expression before and after interferon- γ treatment	J. Electron Microsc., 47, 495 (1998)
坂口 実, 村山幸一, 矢部こずえ, 松村瑛子, 他	β -Casomorphin-5 stimulates neurite outgrowth in a mouse neuroblastoma cell line (Neuro-2a)	Neuroscience Lett., 251, 97 (1998)
濱中久美子	ル・フォール文学の世界—キリスト教と文学との関係について Über die Welt der Werke Gertrud von le Forts — in Bezug auf Mystik	ばいでいあ, 22, 45 (1998)
濱中久美子	犠牲の炎(4) Die Opferflamme (4)	ばいでいあ, 22, 77 (1998)
松島哲久	医療と哲学をつなぐもの	ばいでいあ, 22, 33 (1998)
楠瀬健昭	サタンの誘惑	とい, XVIII, 1 (1998)
楠瀬健昭	The Use of Speech in University English	ばいでいあ, 22, 71 (1998)

2. 総説・解説・その他

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
石田寿昌	Molecular conformation-bioactivity relationship of natural products	Recent Res. Devel. Org. Chem., 2, 55 (1998)
山元 淳, 石田寿昌	プロテアーゼインヒビターの基礎と応用 4 システインプロテアーゼインヒビター—構造化学的な見地から—	治療学, 32, 985 (1998)
木村捷二郎	生薬の放射線殺菌の動向	放射線と産業, 80, 40 (1998)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 中田功二	アシタバに関する研究	Foods Food Ingredients J. Jpn., 178, 52 (1998)
藤井 忍, 池田 潔, 林 恭三	Catalytic and toxicity mechanisms of secretory phospholipase A ₂	J. Toxicol.-Toxin Rev., 17, 279 (1998)
掛見正郎	医療人教育をめざす, 薬学生の病院・薬局実習—病院・薬局実習統一テキストの作成—	月刊薬事, 40, 1513 (1998)
掛見正郎	医療薬学の最前線と今後の展望—医療薬学: 教育現場の立場から—	月刊薬事, 40, 1763 (1998)
田中一彦, 他	腎不全の合併症に用いる薬物	月刊薬事, 40, 2991 (1998)
田中一彦, 他	抗菌薬	月刊薬事, 40, 3273 (1998)
大石宏文, 天形太郎, 大津博則, 野添良昭, 石田寿昌	Macintosh を用いた薬学生へのコンピュータ教育とその評価	情報処理教育研究会講演論文集 (1998)

3. 著書

著者	題目	出版社
森 逸男, 千熊正彦, 他	薬学機器分析	広川書店 (1998)
木村捷二郎, 他	放射線滅菌の現状と展望	日本アイソトープ協会 (1998)
中元安雄, 他	基礎薬学 I	広川書店 (1998)
中元安雄, 他	医薬品情報集	広川書店 (1998)
掛見正郎, 他	1999年版 例題+ポイント 医療薬学 II	広川書店 (1998)
掛見正郎, 他	99年版 薬剤師のための常用医薬品情報集	広川書店 (1998)
掛見正郎, 他	1998年版 薬学生のための病院・薬局実習の手引き	薬業時報社 (1998)
只野清史, 松尾 弦, 橋本貴至, 松村靖夫, 他	Effects of FK409, a nitric oxide donor, on norepinephrine overflow and renal actions induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs, in: <i>NO Biology</i> (S. Moncada et al., ed.)	Portland Press (1998)
松村靖夫, 他	ゴマリグナンの抗高血圧作用 ゴマーその科学と機能性 (並木満夫編)	丸善 (1998)
米花 務, 幸田祐佳, 玄番宗一, 他	腎とフリーラジカル (第4集)	東京医学社 (1998)

編集後記

新入試制度による学生が入学し、新カリキュラムは二年次生まで進行して、本学も徐々にではあるが、教育の内容を変革しつつあると言えよう。一方では、解決していかねばならない多くの難問を抱えているのも事実である。

学報と広報誌とをどのように区別したらよいのか考えながら、この度、はじめてワーキンググループに参加させていただいた。今のところ、両者の区別については思案中であるが、一編集者としてより良い学報の編纂に従事していきたいと考えている。皆様のご意見をお聞かせ願えれば幸いに存じます。 (有本 記)

広報委員会 学報編集ワーキンググループ

森 逸男,	千熊 正彦
加藤 義春,	有本 正生
安田 正秀,	伊藤 美雄
中山 基宏,	藤田 純生
高橋 嘉明	

薬

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>